

教案と今後の課題

2019年11月29日

まつお しん

お知らせ

- 12月6日、20日の授業でそれぞれ課題が課されます。
- この点、自分自身の責任で確認してください。「授業に休んだので知りませんでした」は理由になりません。

教案とは何か

- 授業時間ごとに担当教師が作成する授業計画、活動案(指導案)のこと。日本語教育の場合、その内容は、以下の通り。
 - ① 指導文型・語彙
 - ② 目標(何ができるようになるのか)
 - ③ 教材や教具に関し
 - ④ 授業の流れ(最初のうちは一言一句まで書くこと)
 - ⑤ 時間配分
 - ⑥ その他の留意点

12月6日と12月20日

- 12月6日：導入から基本練習までの教案を書き、なおかつ、何組かが前に出て実習を試してみる。グループで準備することとします(2名が原則)。
- 12月20日：応用練習の教案を書き、なおかつ、何組かが前に出て実習を試してみる。一人で準備してもいいし、グループで準備してもいい。

- 12月13日の課題は、12月6日の授業で説明します。
- 12月13日は国際教養大学の伊東祐郎教授がゲストでお越しになられます。大学院の案内の他、お話をさせていただきます。

12月6日の課題

- は (時間) から (時間) まで です。
の導入と基本練習。
- 留意点(1)
 - 「～時」、「8時半」などは導入済み。
 - (時間)のところに曜日を入れてもいい。曜日も導入済み。
 - 「から」と「まで」を導入すること!

最重要ポイント

- 今、説明している留意点やその他、何度も読み返して課題にあたること。
- それを怠ると必ずどこかで失敗します。
- いい意味での失敗は成長の糧、意味のない失敗は本当に意味がありません。

12月6日の課題

- _____は (時間) から (時間) まで です。
の導入と基本練習。
- 留意点(2)
 - 「何時から何時までですか」は導入、練習されていないなくてもOKです。
 - 「起きます」、「寝ます」などの動詞は使用不可(未習)
 - Tが話しすぎない(なおかつ、しっかり分かるように導入する)
 - SSとSのバランスを考える

導入のためのヒント(どちらが難しいか?)

- 「図書館は9時から8時までです」
- 「図書館は何時から何時までですか？」
- 大原則を思い出してください
 - 易しいもの → 難しいもの

注意点

- 12月6日の授業で、教案を持参してください。
必ず閉じるか、クリアファイルなどに入れること。
- 教案のシートはMLで送付(添付)します。

注意点

- 氏名と感想（振り返り）シート番号を明記すること。

学習者の設定

- 西荻・吉祥寺にある日本語学校で学んでいる。
- 4名（中国1名：ワンさん、韓国1名：イさん、インドネシア1名：タリさん、オーストラリア1名：ミラーさん 全員女性）
- 発表の際、学習者はボランティアを募ります

教師側の設定

- 発表の際、複数で教えて構わない。
- 原則的には媒介語は使用せず日本語で行うこと。
- 導入と基本練習を合わせて12分程度。
- 「みんなの日本語」の練習AからCなどを利用して構わない。

_____は (時間) から (時間) までです。

- 基本練習のポイント:

- どのような代入練習を行うか(動詞の活用はないので変換練習はないはず)
- 機械的な代入練習だけではなく、学習者の実際の生活や出身国の事情をどのように練習に結びつけるか(←すべての練習が教師のコントロールによる練習では面白くないし身につかない)。
- 必要に応じて、教具も準備してください。時計、絵カード、文字カード、その他(道具に使われてはいけません！)
- 黒板にずっと「から」と「まで」を提示する必要はない。

_____は (時間) から (時間) までです。

- 基本練習のポイント:
- ()は の ()に何が入れられるのか、よく考えてください。1課から4課までに習ったものが何なのか、しっかりチェックしてください。また、西荻や吉祥寺にある有名な場所などは教科書になくても使用していいです。

- 教案には、教師側のすべての(予定される)発話、そして、学生の予想される発話を書き込むこと。
- タスクシートを利用する場合には、教案にホッチキスなどで添付すること(教案の中に書き込めるならばそれでもいい)

注意点

- 応用練習のところで、「前作業」、「本作業」、「後作業」という流れを紹介しました。基本練習（例えば、代入練習や変換練習など）には原則的にこの3段階はありませんので、教案作成時に注意してください。

評価に関し

- メーリングリストで送付するルーブリックの観点に基づき評価します。
- よく評価の観点を理解してください。

評価の観点

- ①導入
- ②語彙や文型の コントロール
- ③学習者の発話量、練習量
- ④基本練習の内容の充実度
- ⑤創造力・生き生き力・斬新性など

(参考)2017年度の結果

- 提出 33組
- 最高 8点・・・3組 7点・・・6組 6点・・・2組
5点・・・4組 4点・・・4組 3点・・・6組
2点・・・3組 1点・・・3組 0点・・・2組
- 平均点 4.27点

全員へ

- 「みんなの日本語」の教科書のコピーを必ず持参すること。

心構え

- 教師がしゃべり過ぎない。と同時に、理解を促進しないでいいというわけではない。
- 学習者に十分な発話機会を与える。
- 間違いの修正をどのように行うのか、練習しておくこと。
- シンプルさ(シンプルと手抜きとは違います)。
- テンポのよさ(テンポがよくても学習者を置き去りはダメですよ)。
- 「分かりますか」と質問するぐらいなら、分かっているかどうか発話してもらえばいい！

申し込み

- 優先順位は以下の通り。
 1. この授業後、すぐに申し込んだグループ
 2. それ以降、なおかつ授業前に申し込んだグループ
 3. 残りは、授業で名簿を元に松尾が指名します。課題はシラバスで示されている通り、成績評価の基準となっています。この点、自己責任で準備にあたってください。

今学期の発表機会もあとわずかです。是非ともこの機会を有効に生かしてください。

12月20日の課題(予告)

- 12月20日: 応用練習の教案を書き、なおかつ、何組かが前に出て実習を試してみる。一人で準備してもいいし、グループで準備してもいい。
- 12月20日の授業で、**全員、教案を持参すること。**グループで書いた場合は、グループで一部で構わない。

課題の内容

- 4課の学習項目（文型・語彙・表現など）すべてを学び、基本練習も実施した後に行う総まとめ的な応用練習を考え、教案を書き、実行すること。

- 必ずしもすべての文型を使用する必要はない。
- 語彙に関してもすべての語彙を使用する必要はない。
- 未習の文型、語彙は使用しないこと。
 - 「何時に朝ご飯を食べましたか」は「食べます」が未習です。注意して下さい。

- 未習の文型、語彙は使用しないこと。
 - 「では、今から、4課で習ったことを使って、練習しましょう」というような指示は分かりませんよ！
- ① 習います は未習
- ② 使います も未習
- ③ 「た」形・「て」形も未習
- ④ 「ましょう」も6課
- ⑤ 「4課で」の「で」も未習
- これだけ未習要素があって、この表現が「教室用語です」は通りませんので注意してください。

- 活動は、「インタビュー」か「ロールプレイ」をお勧めします。おそらく「インタビュー」の方がやりやすいと思います。
- **前作業(準備)と後作業(フィードバック)も大切**にすること。

- 教案には、教師側の**すべての発話、そして、学生の予想される発話**を書き込むこと。
- タスクシートを利用する場合には、教案にホッチキスなどで添付すること(教案の中に書き込めるならばそれでもいい)

学習者の設定

- 日本の日本語学校で学んでいる。学校の場所は西荻・吉祥寺です。
- 4名（中国1名 ワンさん、韓国1名 イさん、インドネシア1名 タリさん、オーストラリア1名 ミラーさん 全員女性）
- グループで発表する場合も、学習者はボランティアを募ること

教師側の設定

- グループ発表の場合、複数で教えて構わない。
- 原則的には媒介語は使用せず日本語で行うこと。
- 15分程度で行うことが目安です。
- 「みんなの日本語」の練習Cなどを利用して構いません。ただし、そのまま使っても応用練習にはなりません。

- PPTや動画などの利用も可。
- ただし、PCは自分自身で持ち込むか、言語科学専攻オフィスなどで予め借りて、動作確認をした上で、授業に臨むこと。

心構え

- 教師がしゃべり過ぎない。と同時に、前作業では、学習者に活動内容が分かるように説明する必要があります。説明のことばが難しいと、分かりません。
- 学習者に十分な発話機会を与える。
- 間違いの修正をどのように行うのか、練習しておくこと。
- シンプルさ(シンプルと手抜きとは違います)。
- テンポのよさ(テンポがよくても学習者を置き去りはダメですよ)。
- 「分かりますか」と質問するぐらいなら、分かっているかどうか発話してもらえばいい！

申し込み

- 優先順位は以下の通り。
 1. 本日のうちに申し込んだグループ
 2. 本日以降、なおかつ授業前に申し込んだグループ
 3. 残りは、授業で名簿を元に松尾が指名します。課題はシラバスで示されている通り、成績評価の基準となっています。この点、自己責任で準備にあたってください。

発表を行った学生の教案は松尾がしっかりと赤を入れて返却します。希望すれば、直接、説明などの指導をします。

教案の実際

- 今から教室の様子をイラストにした絵教材を配布します。それに基づいて教案の実際を考えていきましょう。
- 配布資料：『クラス活動集101』p89 あきれた教室

- 今、配布したプリントには A と B があります。
- 質問1 文型シラバスだとして、ターゲットになっている文型はどのような文型であると予想できますか。

- 「~しています」、「~していました」がターゲットになる文型であると思われます。
- 質問2 なぜAとBの2種類あるのでしょうか。

- 「~しています」、「~していました」がターゲットになる文型。
- 質問2 なぜAとBの2種類あるのでしょうか。
- インフォメーションギャップを作るためです。
- 質問3 では、これらを利用して、どのような活動を行いますか。

- 質問3 これらを利用して、どのような活動を行いますか。
- それをこれから教案とともに紹介します。